

株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌

株主通信

2014年 秋号

本株主通信では、7月末に公表しました2014年度第1四半期決算の内容をご報告いたします。

第1四半期の営業損益は過去最高の395億円となりました

売上高は、電力・社会インフラ部門やコミュニティ・ソリューション部門を中心に伸長し、前年同期比で369億円の増収となる1兆4,080億円となりました。

営業損益は、前年同期比で144億円の増益(57%増)となり、第1四半期としては過去最高となる395億円を達成しました。部門別では、スマートフォン、タブレット、薄型パソコン、メモリカードなどの商品においてデータ記録・保存用として組み込まれるNAND型フラッシュメモリが引き続き高い利益率を維持し、電子デバイス部門の営業損益は366億円となりました。また、電力・社会インフラ部門やコミュニティ・ソリューション部門が前年同期と比べて増益となり、ライフスタイル部門も家庭電器が3四半期連続で黒字を達成するなど、前年同期比+216億円の大幅改善となりました。

2014年度 第1四半期連結決算

	2013年度 第1四半期	2014年度 第1四半期	(単位:億円) 前年 同期比
売上高	13,711	14,080	369
営業損益	251	395	144
税引前損益	184	173	-11
当期純損益	53	89	36

2014年度は過去最高となる営業損益をめざします

当社は、人々の「安心・安全・快適な社会 - Human Smart Community (ヒューマン・スマート・コミュニティ)」の実現に向け、エネルギー、ストレージ、ヘルス

※本株主通信では、「継続事業税引前損益」を「税引前損益」として、「当社株主に帰属する四半期純損益」を「当期純損益」として表示しています。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろから多大なご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本株主通信は

2014年6月末時点での株主のみなさまにお送りいたしますことをご了承ください。

ケアの各分野で貢献してまいります。今後も、東芝ならではの方法で、自ら成長の原動力を創り出していく「創造的成長」の実現に向けた戦略・施策を着実に実行するとともに、厳しい事業環境が続くライフスタイル関連事業については、さらなる改善施策を実施するなどし、2014年度は、過去最高となる営業利益3,300億円の達成をめざします。

2014年度 連結業績見通し

※5月8日に発表した2014年度の業績予想に変更はありません。(単位:億円)

	2013年度	2014年度	前年度比
売上高	65,025	67,000	1,975
営業損益	2,908	3,300	392
税引前損益	1,809	2,500	691
当期純損益	508	1,200	692

剰余金の配当(中間)につきましては、業績動向などを踏まえて決定してまいります。株主のみなさまには、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

2014年9月

代表執行役社長

田中久雄

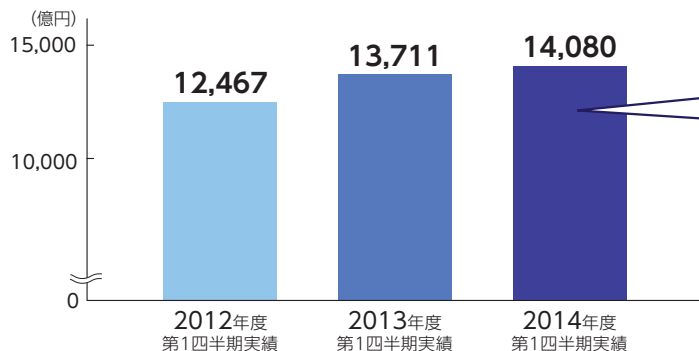


2014年度 第1四半期連結決算概要

7月31日に2014年度第1四半期決算を公表しました。本株主通信では、業績について概要を抜粋してご紹介します。
2014年度第1四半期連結決算の詳細は、
東芝ホームページの投資家情報 ➡ IRイベント ➡ 決算説明会 でご覧いただけます(説明動画も視聴できます)。

(1) 売上高

電力・社会インフラ部門とコミュニティ・ソリューション部門を中心に伸長し、増収となりました。

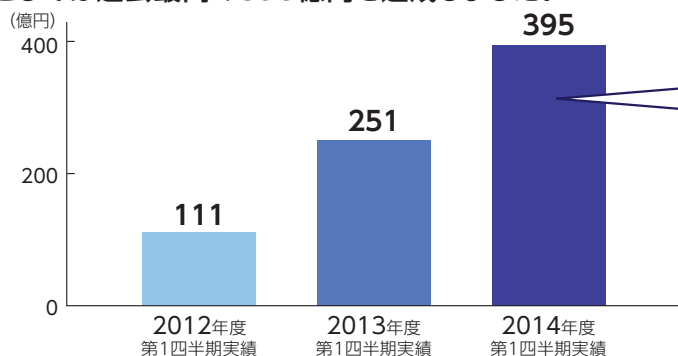


2014年度 第1四半期 売上高について

- 電力・社会インフラ部門は、太陽光発電システムや鉄道向け機器などの社会システム事業が好調だったほか、電力システム事業も堅調に推移したことにより、前年同期比で増収となりました。コミュニティ・ソリューション部門もビルソリューションや東芝テックの好調により前年同期比で増収となりました。
- ライフスタイル部門は、パソコン事業が増収となり部門全体で若干の増収となりました。

(2) 営業損益

前年同期と比べて、57%の増益となり、第1四半期決算としては過去最高の395億円を達成しました。

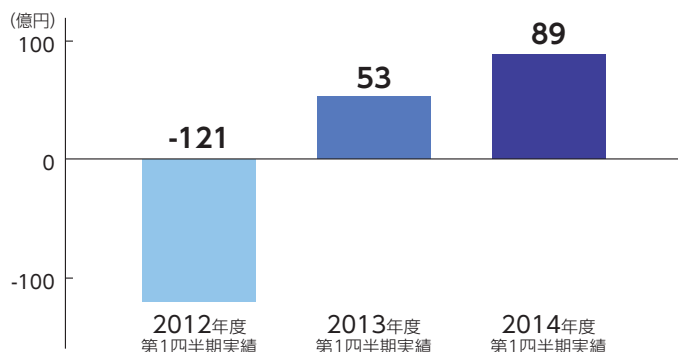


2014年度 第1四半期 営業損益について

- 電子デバイス部門では、NAND型フラッシュメモリの販売価格の低下があったものの、微細化の進展による競争力向上により高い利益率を維持しました。また、ストレージは3.5インチHDDを中心に増益となり、部門全体では366億円の営業損益を達成しました。
- 電力・社会インフラ部門では、太陽光発電システム、鉄道向け機器や原子力発電システムが増益となったことにより、部門全体では増益となりました。コミュニティ・ソリューション部門も業務用空調や東芝テックが増益となり、部門全体で増益となりました。
- ライフスタイル部門では、家庭電器が3四半期連続で黒字を達成し、パソコンも黒字となりました。テレビも大幅に改善し、部門全体では前年同期比で+216億円と大きく改善しました。

(3) 当期純損益

営業損益の好調により、過去最高の2007年度に次ぐ水準となる89億円を達成しました。



部門別営業損益

(単位:億円)

部門名	2013年度 第1四半期	2014年度 第1四半期	前年 同期比
電力・社会インフラ	43	108	65
コミュニティ・ソリューション	7	36	29
ヘルスケア	32	5	-27
電子デバイス	498	366	-132
ライフスタイル	-249	-33	216
その他*1	2	-3	-5
計*2	251	395	144

*1 「その他」には、主な事業として物流サービスなどがあります。

*2 営業損益には、上記のほかに、部門間消去、基礎的研究開発費・本社管理部門費等の一部が2013年度第1四半期に-82億円、2014年度第1四半期に-84億円含まれています。

株式会社 **東芝** 〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号 TEL (03)3457-4511(代表)

株式事務についてのご案内

株主名簿
管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
東芝専用ダイヤル ☎0120-78-6502

ご意見・資料請求は株式会社東芝 広報・IR室あてにお送りください。

投資家情報サイト
<http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と異なることがありますことをご承知おきください。